

＜ 今日の説教のポイント ルカによる福音書 16 章 14～31 節 ＞
ルカ福音書 16 章は、16 章全体から考える時に見えて来る！

1 注目① 苦しむ者、貧しい者を助けることが天に積む宝(12:33)。

16 章 1-13 節は難解な箇所でした。イエス様は「抜け目なく不正を働くこと」(8)を良しとされるのかと思わされるような話でした。しかし、この話から聞き取るべきはそんなことではなく、苦しむ者の苦しみを和らげることを神様は喜ばれ、それは「永遠の家(神の国)」(9)に入れてもらえることにつながるということでした。それは 19 節以下の「金持ちとラザロ」の話を併せ読んだときにより一層見えて来ることなのです。また、すでにイエス様は「天に積む宝」(12:33)として話されています。

2 注目② ファリサイ人はなぜイエス様をあざ笑ったのか？

「金に執着するファリサイ派の人々が、この一部始終を聞いて、イエス様をあざ笑った」(14)のはどうしてでしょうか？ ファリサイ人は、旧約聖書に「主なる神に従って歩む者は幸いを受ける」(申命記 28:1-14)とあることから、富むのは神様の祝福を受けているしるしだと考えていたのです。よって、「神と富とに仕えることはできない」(13)と語ったイエス様の教えをあざ笑ったのです。しかしイエス様は、「それは旧約聖書の神様の御旨を正しく捉えていない」と答えられ(「モーセと預言者」(29, 31)は旧約聖書の教えを指す)、ファリサイ人の聖書解釈は偽善であり(15-18)、イエス様が告げられる内容(「神の国の福音」16)こそが旧約聖書の神様の教え(律法)を成就するものだと告げられたのです。

3 私たちがどのように生きるべきかをはっきり示している 16 章。

旧約聖書は確かに「主なる神に従って歩む者は幸いを受ける」と教えています。しかし、その幸いはこの世的に富むことや健康や名声を得ることではなく、神に背を向けて自分中心に生きたイスラエルの民をも決して見捨てられない神様がおられ、その神様と共に生きることのできる幸いなのです。そして、イスラエルの民自身の歴史(旧約聖書)がそのことを伝えているのです。さらに、その神様がイエス様をお送り下さり、まさに愛と赦しに満ちた姿で生きて死なれ、その後復活が与えられることを示して下さったのです(新約聖書)。このイエス様に倣って生きる以上に幸いで確かな生き方があるのでしょうか？ 感謝！